

大課題名： 生食用ブドウ新品種の育成(H16～)

小課題名：(新) ブドウの早期育成に向けた育種手法の確立(R3～R5)・成長戦略研究候補

### 背景とねらい

- 皮ごと食べられるブドウとして、黄緑色系の「シャインマスカット」が普及し、赤色系では「甲斐ベリー7」が育成されたことから、生産者や市場からは、本県オリジナルの皮ごと食べられる黒色系ブドウ品種の、早期育成が強く望まれている。
- 一方、現状の品種育成においては初結実まで最低6年が必要で、その後の選抜期間も含めると全体で十数年を要するため、品種育成を加速するためには新たな選抜システムの確立が必要である。
- また、皮ごと食べられるブドウの育種では、皮ごと食べる際に懸念される渋味の発生もマイナス要因となっている。
- そこで本研究では、遺伝子診断と早期結実による「新たな選抜システム」と「選抜における渋みの評価方法」を検討し、早期育成に向けた新たな育種手法を確立し、皮ごと食べられて温暖化の条件下においても安定して着色する黒色系品種の早期育成を目指す。

#### 【課題要請元】

JA フルーツ山梨、部門別代表者会議

### 試験内容

#### (1) 遺伝子診断と早期結実による「新たな選抜システム」の確立(R3～5)

遺伝子診断と早期結実を可能にする技術を組み合わせ、育成期間を短縮して品種育成を加速する選抜システムを確立する。併せて、新システムを活用し、皮ごと食べられる黒色優良系統の育成を目指す。

(着色遺伝子診断による選抜)

※選抜数は分離比を 3:1 にした場合を想定

- ・R2 年度交雑：400 個体→100 個体
- ・R3 年度交雑：700 個体(予定)→175 個体
- ・R4 年度交雑：500 個体(予定)→125 個体
- ・R5 年度交雑：500 個体(予定)→125 個体

<検討項目>

- 休眠枝による高接ぎや幼苗への緑枝接ぎ等の技術を活用し、従来法と比較する中で、初結実までの期間短縮方法について検討

#### (2) 渋味評価方法の検討(R3～5)

様々な渋味原因物質を分析し、生食ブドウにおける主要な渋味原因物質の特定や、官能評価とどのように関連するかについて明らかにする。

<検討項目>

- 主要品種や交雑母本の渋味原因物質の分析
- 渋味成分分析値と官能評価との関連性

### 期待される効果

- 皮ごと食べられて温暖化に適応した黒色系品種の早期育成が図られる。
- 確立した育種手法を他のブドウ育成にも活用し、次期オリジナル品種育成の加速化が期待できる。
- ブドウ王国山梨のさらなるイメージアップと知名度向上が図られる。

#### 【行政政策上の位置づけ】

- 山梨県総合計画 戦略 1-政策 3-3 オリジナル品種の育成、高品質化の推進
- やまなし農業基本計画(アクションプラン)
  - I-2-(3)-① 地球温暖化に適応した品目・品種、栽培技術の開発・普及
  - I-3-(1)-① 優良品種の開発・普及